

(1993年11月26日設立)

英語語法文法学会 THE SOCIETY OF ENGLISH GRAMMAR AND USAGE

事務局便り

No. 38

2023年4月12日

会 長 中澤和夫

事務局 〒485-8565 愛知県小牧市大草 5969-3

愛知文教大学人文学部人文学科 西脇幸太 研究室内

TEL : 0568-78-2211 (代表) FAX : 0568-78-2240 (代表)

Email: segu.office@gmail.com

ウェブサイト: <http://segu.sakura.ne.jp> 郵便振替口座 02260-0-70393 英語語法文法学会

◆『英語語法文法研究』第29号刊行

『英語語法文法研究』第29号が2022年12月に刊行されました。第29回大会でのシンポジウム「正しい英文解釈に必要な語法文法知識」の論文3編のほか、6編の研究論文と4編の語法ノートが掲載されています。

◆第31回大会開催案内

英語語法文法学会第31回大会を下記の要領で開催いたします。後述の応募規定を十分にご参照いただき、ご応募くださいますようお願いいたします。

日時：2023（令和5）年10月21日（土）

会場：桜美林大学 町田キャンパス（予定）

（〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758）

ウェブサイト：

<https://www.obirin.ac.jp/access/machida/>

今回のシンポジウムは、「現代英語に見る歴史の痕跡」をテーマとして準備中です。司会と講師は以下の通りです。ご期待ください。

司会・講師：野村忠央（文教大学）

講師：家口美智子（金沢大学）

講師：保坂道雄（日本大学）

講師：村上まどか（実践女子大学）

[敬称略]

◆第19回英語語法文法セミナー

標記セミナーを下記の要領で開催いたします。

日時：2023（令和5）年8月7日（月）

13時30分～17時30分

会場：関西学院大学大阪梅田キャンパス
（〒530-0013 大阪市北区茶屋町 19-19
アプローズタワー）（予定）

参加費：2,000円（資料代を含む）

今回のテーマは、『英語教師のための語法文法』です。司会と講師、各講師のタイトルは以下の通りです。

司会・講師：吉良文孝（日本大学）

講師：小澤賢司（日本大学）

「助動詞を使った助言表現」

講師：佐藤健児（日本大学）

「英語の未来表現—その意味とカタチ—」

講師：吉良文孝（日本大学）

「カタチは意味を合図する」

[敬称略]

参加ご希望の方は、本学会ウェブサイト（<http://segu.sakura.ne.jp/index.php>）にアクセスし、申込フォームに必要事項を記入の上、お申し込みください（申込フォームの利用開始時期につきましては、追って本学会ウェブサイトにてお知らせいたします）。申込み締め切りは7月31日（月）です。必要な方にはセミナー受講証も発行いたします。奮ってご参加ください。なお、会場は変更になる可能性がございます。変更がある場合は、本学会ウェブサイトにてお知らせいたします。

◆第23回「英語語法文法学会賞」選考結果

初代会長小西友七先生の寄付金を基金とした第23回「英語語法文法学会賞」（2021年4月1日～2022年3月31日までに出版された単行本が対象）について、推薦がなかったため、該当者なしという結果になったことが第30回記念大会（オンライン開催）において報告されました。

◆第24回「英語語法文法学会賞」について

英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に贈られる第24回英語語法文法学会賞対象図書（他薦に限る）を受け付けております。対象図書は2022年4月1日～2023年3月31日までに出版された単行本です（ただし、研究社より順次刊行されている『〈シリーズ〉英文法を解き明かす』全10巻は本賞の対象とはなりませんので、ご注意ください）。

同封の推薦用紙に推薦図書、推薦理由を記入の上、faxあるいは郵便で2023年5月10日までに事務局宛にお送りいただくか、同一の内容をemailで事務局までお知らせください。

事務局：〒485-8565 愛知県小牧市大草 5969-3
愛知文教大学人文学部人文学科
西脇幸太 研究室内
FAX：0568-78-2240（代表）
Email: segu.office@gmail.com

英語語法文法学会賞の授賞に関する規定

（授賞）

第2条 学会賞は、前年度4月1日から翌年3月末日までに、英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に対して、学会が設置する「英語語法文法学会賞委員会」（以下「委員会」という）の選考により、運営委員会の議を経て授賞する。

2 授賞は、原則として年度ごとに1件とする。

3 授賞式は年次大会において行う。

（関係部分一部抜粋）

◆第13回「英語語法文法学会奨励賞」選考結果

若手会員による英語の語法・文法に関する優れた論文に対して贈られる第13回「英語語法文法学会奨励賞」は、慎重審議の結果、該当者なしとなりました。なお、英語語法文法学会奨励賞授賞規定の一部（下記第2条の下線部を参照）が改定されたのでご注意ください。第14回「英語語法文法

学会奨励賞」は、本年7月10日締め切りの『英語語法文法研究』への応募論文がその対象となります。

英語語法文法学会奨励賞授賞規定

（授賞の対象）

第2条 奨励賞は、毎年7月10日を締切日とする『英語語法文法研究』への応募論文（研究論文（単著）に限る。シンポジウム論文、語法ノート、書評は除く）を対象として、英語語法文法学会の趣旨に照らし、実証性・独創性・発展性に富む、優れた研究に対して授賞する。応募者は上記の締切日の時点で、39歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了後10年以内の学会会員に限る。なお、同賞の授賞は過去に受賞のない者に限る。

（選考方法）

第3条 編集委員会が選考にあたり、運営委員会の議を経て決定する。奨励賞の授賞は、原則として年度ごとに1篇以内とする。

（選考結果の発表および授賞式）

第4条 授賞式は年次大会において行う。受賞者に対しては、賞とともに記念品を贈呈する。

（関係部分一部抜粋）

◆運営委員の交替

本年2月初旬に開催した臨時運営委員会（メール会議、2023年2月2日（木）～8日（水）15:00）において、運営委員として以下の方の就任が承認されました（任期は2023年4月1日より2025年3月末日まで）。

山岡洋（桜美林大学）

[敬称略]

また、本年3月末日をもって、以下の方が運営委員を退任されました。学会運営に対するこれまでのご尽力に心より感謝申し上げます。

林龍次郎（聖心女子大学）

[敬称略]

◆編集委員の退任

牛江一裕先生（埼玉大学名誉教授）が本年3月末日をもって編集委員を退任されました。これまでのご尽力に心より感謝申し上げます。

◆編集委員の補充

本年2月初旬に開催した臨時運営委員会（メール会議、2023年2月2日（木）～8日（水）15:00）において、編集委員として以下の方の就任が承認されました。

須賀あゆみ（奈良女子大学）
野村忠央（文教大学）

[敬称略]

◆運営委員会委員の就任

今年度の各委員会の委員長、副委員長、構成員は下記の通りです（◎は委員長、○は副委員長）。

大会実行委員会

◎松原史典 ○吉川裕介 山岡洋 住吉誠
出水孝典 吉田幸治 [敬称略]

セミナー委員会

◎山本修 ○吉良文孝 金澤俊吾 前川貴史
濱松純司 五十嵐海理 [敬称略]

◆第31回大会研究発表者募集

第31回大会での「研究発表」の発表者を募集します。会員の方は、下記の研究発表応募規定に従い、事務局宛（segu.office@gmail.com）に奮ってご応募ください。

なお、発表要旨ファイルと応募者情報ファイルの郵送による投稿は廃止し、事務局メールアドレスへのファイル送付による投稿と、Google Formによる投稿確認との2段階で会員の皆さま方の投稿を確実に受け取れるようにしております。

＜研究発表応募規定＞

1. 応募者は英語語法文法学会の会員でなければならない。2名以上の共同研究で応募する場合は、応募者全員が会員でなければならない。
2. 発表時間は25分以内（別に質疑応答が10分）とする。
3. 応募者は、下記①と②の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。

- ① 発表要旨（MS Word ファイル あるいは PDF ファイル）:

A4判 32字×25行（文字の大きさは12ポイント）で、本文と注を含めて4枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、氏名・所属は記入しないこと。要旨の内容は、本学会の設立趣意書に鑑み、個別言語としての英語の実態を体系的に明らかにし、

英語の具体的な語彙や構文の特性を実証的に説明することを目的として、未発表のものであること。

- ② 応募者情報（MS Word ファイル あるいは PDF ファイル）:

発表題目、氏名（ふりがな）、所属・職名（学生会員は学年も記入）、郵便番号、住所、電話番号、email address を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。

4. 上記①と②は、次の2つの手続きにより提出すること。

4-1. 本学会事務局宛（segu.office@gmail.com）に、①と②を email に添付し、送信する。件名は「研究発表応募」とする。応募者は発表要旨のファイル送信に先立ち、ファイルの「プロパティ」等を確認し、ファイル情報等に作成者名を残さないこと。

4-2. 本学会の研究発表応募用ウェブページにアクセスする。ウェブページに必要な事項を入力の上、送信すると応募者本人に受領のメールが届く（英語語法文法学会の gmail アドレスにもメールが届く）。ウェブページは、必要事項を全て入力しないと送信できない点に留意すること。

（4-1）事務局へのファイルの送付と（4-2）研究発表応募用ウェブページからの記入送信の両方がそろった段階で応募が完了する。なお、ウェブページからのメール返信をもって、応募受領の通知とする。

5. 応募締め切りは、（4-1）事務局へのファイル送付と（4-2）研究発表応募用ウェブページからの記入送信の両方とも、7月25日23時59分（必着）とする。
6. 選考結果は8月中旬までに通知する。
7. 採用者は発表要旨（500字以内）と、予稿集の原稿を所定の期日までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。

（2019年3月10日 改定）

[応募用ウェブサイトについて]

上記規定の4-2にある「研究発表応募用ウェブページ」は、7月10日より学会ウェブサイトから利用可能となります。

[お願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認くださいますようお願いいたします。

◆第 31 回大会語法ワークショップ発表者募集

第 31 回大会での「語法ワークショップ」の発表者を募集します。語や構文などを取り上げ、言語資料に基づきその振る舞いの特性を明らかにすることを目的とします。下記の語法ワークショップ応募規定に従い、事務局宛 (segu.office@gmail.com) に奮ってご応募ください。

なお、語法ワークショップでの各自の持ち時間は発表 15 分と質疑応答 5 分の計 20 分です。また、先の研究発表応募規定と同様、発表要旨ファイルと応募者情報ファイルの書式は変更ございませんが、書面の郵送による投稿は廃止し、事務局メールアドレスへのファイル送付による投稿と、Google Form による投稿確認との 2 段階で会員の皆さま方の投稿を確実に受け取れるようにしております。

＜語法ワークショップ応募規定＞

1. 応募者は英語語法文法学会の会員でなければならない。2 名以上の共同研究で応募する場合は、応募者全員が会員でなければならない。
2. 発表時間は 15 分以内(別に質疑応答が 5 分)とする。
3. 応募者は、下記①と②の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。

① 発表要旨 (MS Word ファイル あるいは PDF ファイル):

A4 判 32 字×25 行(文字の大きさは 12 ポイント)で、本文と注を含めて 4 枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、氏名・所属は記入しないこと。要旨の内容は、本学会の設立趣意書に鑑み、個別言語としての英語の具体的な語彙や構文の特性を調査した成果を報告することを目的として、未発表のものであること。

② 応募者情報 (MS Word ファイル あるいは PDF ファイル):

発表題目、氏名(ふりがな)、所属・職名(学生会員は学年も記入)、郵便番号、住所、電話番号、email address を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。

4. 上記①と②は、次の 2 つの手続きにより提出すること。

4-1. 本学会事務局宛 (segu.office@gmail.com) に、①と②を email に添付し、送信する。件名は「語法ワークショップ応募」とする。応募者は発表要旨の

ファイル送信に先立ち、ファイルの「プロパティ」等を確認し、ファイル情報等に作成者名を残さないこと。

4-2. 本学会の語法ワークショップ応募用ウェブページにアクセスする。ウェブページに必要事項を入力のうち、送信すると応募者本人に受領のメールが届く(英語語法文法学会の gmail アドレスにもメールが届く)。ウェブページは、必要事項を全て入力しないと送信できない点に留意すること。

(4-1)事務局へのファイルの送付と(4-2)語法ワークショップ応募用ウェブページからの記入送信の両方がそろった段階で応募が完了する。なお、ウェブページからのメール返信をもって、応募受領の通知とする。

5. 応募締め切りは、(4-1)事務局へのファイル送付と(4-2)語法ワークショップ応募用ウェブページからの記入送信の両方とも、7 月 25 日 23 時 59 分(必着)とする。
6. 選考結果は 8 月中旬までに通知する。
7. 採用者は発表要旨(500 字以内)と、予稿集の原稿を所定の期日までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。

(2019 年 3 月 10 日 改定)

[応募用ウェブサイトについて]

上記規定の 4-2 にある「研究発表応募用ウェブページ」は、7 月 10 日より学会ウェブサイトから利用可能となります。

[お願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認くださいますようお願いいたします。

【応募上の注意】

研究発表と語法ワークショップの両方に同時に応募することはできません。
また、二重投稿はご遠慮ください。

◆『英語語法文法研究』投稿募集

『英語語法文法研究』(第 30 号)への投稿を受け付けています。論文・語法ノートへの投稿は現代英語の語法および文法研究に資する内容のもので未発表論文に限ります。原稿ができた時点で早目に投稿していただければと思います。

近年インターネット上の用例を使用されている

投稿論文が多いようです。インターネット上の用例を使用する場合は、インフォーマントチェックを必ず受けておいてくださるようお願いいたします。

なお、英語語法文法学会奨励賞授賞規定の改定に伴い、投稿規定が一部改定されましたのでご注意ください（下記6②の下線部を参照）。

＜『英語語法文法研究』（第30号）の論文・語法ノートへの投稿規定＞

1. 投稿は会員に限る。
2. 投稿論文は現代英語の語法および文法研究に資する内容のものであり、未発表の論文であること。
3. 投稿締め切りは 7月10日(必着)、採否決定を8月中旬、刊行を12月とする。
4. 単著・共著にかかわらず、同一人が同時に2本以上の論文を投稿することはできない。論文と語法ノートに各1本(計2本)、あるいは語法ノートのみにも2本以上の投稿は認められる。
5. 論文の場合、長さは34文字×31行、16枚以内とする。語法ノートの場合、長さは34文字×31行、6枚以内とする。注は脚注とし、脚注の文字数も論文・語法ノートに規定された総文字数に含める。
6. 投稿者は、下記①と②の電子ファイル、ならびにその紙媒体を用意する。
 - ① 「論文」・「語法ノート」の原稿(MS Word ファイルまたは PDF ファイル)

冒頭には論文題名のみを記し、名前・所属は記入しない。また、ファイルの情報として作成者名を残さない(ファイルの「プロパティ」等を確認し、必ず作成者名を削除するか匿名にする)。
 - ② 執筆者情報(MS Word ファイルまたは PDF ファイル)

論文題名、氏名(ふりがな)、所属、連絡先の郵便番号と住所、電話番号、email address を明記する(共著の場合は、執筆者全員の情報を明記のこと)。投稿論文が奨励賞の審査対象となることを希望する場合は、必ず、当該年度の投稿論文応募の応募締切時点での年齢と、大学院修士課程あるいは博士前期課程を修了した年月(または、在籍中ならばその旨)を、このファイルに明記すること。(奨励賞の対象は研究論文(単著)に限る(シンポジウム論文、語法ノート、書評は除く)。応募者は上記の締切日の時点で、39歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了後10年

以内の学会会員に限る。なお、同賞の授賞は過去に受賞のない者に限る。)

なお、紙媒体については、①と②を、A4用紙にそれぞれ1部印刷する。

7. 入力に関しては、特に以下の点に留意すること。
 - a. 投稿の段階では原稿に謝辞を入れない。
 - b. 例文の前後に1行ずつの空白行を設ける。
 - c. 各節には見出しをつけ、節の前に1行ずつ空白行を設ける。
 - d. 外字、機種特有の文字・記号は使用しない。
 - e. 和文中の英語の語句の前後に半角のスペースを入れる。
 - f. 2桁以上の数字は半角を用いる。
 - g. 小説・論文の出典は下のように表記する。(S. Sheldon, *The Windmill*), (Declerck 1979: 123)
 - h. 上記以外は既刊号の論文を参考にすること。
8. 参考文献の書式は以下の例にならうこと。

Hopper, P. J. 1979. "Aspect and Foreground-ing in Discourse." In T. Givón ed., *Syntax and Semantics* 12, 213-241. New York: Academic Press.

柏野健次. 1993. 「easy タイプの形容詞の3つの意味」衣笠忠司・赤野一郎・内田聖二(編)『英語基礎語彙の文法』145-154. 東京: 英宝社.

小西友七. 1976a. 『英語の前置詞』東京: 大修館.

小西友七. 1976b. 『英語シノニムの語法』東京: 研究社.

Lasnik, H. and M. Saito. 1984. "On the Nature of Proper Government." *Linguistic Inquiry* 15, 235-289.

村田勇三郎. 1979. 「Functional Sentence Perspective」『英語青年』第125巻第3号, 20-21.

Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.

van der Leek, F. 1996. "The English Conative Construction: A Compositional Account." *CLS* 32, 363-373.
9. 原稿の採否は編集委員会の審査により決定する。
10. 著者校正は1回とし、変更は字句の修正のみとする。
11. 原稿料は支払わない。
12. 応募書類の提出先

第6項の①と②の電子ファイルはemailに添付して、編集委員長宛にemail(segu.paper@gmail.com)で送ること。件名を「投稿」とする。また、①と②の

紙媒体は、編集委員長宛*に郵送すること(「投稿論文在中」と朱記)。

*〒950-2181

新潟市西区五十嵐2の町 8050 番地
新潟大学人文社会科学系 大竹芳夫

(2023年3月11日改定)

【応募上の注意】
研究発表との二重応募、他学会の機関誌との二重投稿はできません。

◆英語語法文法学会第30回記念大会(報告)

[敬称略]

英語語法文法学会第30回記念大会は2022年10月15日(土)、オンライン方式により開催され、語法ワークショップ、研究発表、記念講演が行われました。多数の参加者があり、活発な議論が行われました。司会を務めてくださった松原史典先生、山岡洋先生、中澤和夫先生に感謝申し上げます。

語法ワークショップ 10:30-11:45

- 「Could care less にかかわる語用論的要因」大野真機(昭和大学)
- 「派生名詞 slowness の統語と意味」桑名保智(旭川医科大学)
- 「[主動詞 + a look (at)] の意味と語法」井口智彰(大島商船高等専門学校)

研究発表 13:00-14:45

- 「補文を伴う非人称 it 構文に現れる time の用法について—述語 possible との比較を通して—」寺山里穂(金沢大学大学院)
- 「be about to に関する一考察」岡麟太郎(日本大学大学院)
- 「文副詞 wisely の記述的考察」西村知修(石川工業高等専門学校)

記念講演 15:00-18:00

- 「実証的英語学研究の一方法」八木克正(関西学院大学名誉教授)
- 「人は世界をどのように認識し、ことばにしているか」安井泉(筑波大学名誉教授)
- 「語法・文法研究から語用論へ、あるいは語用論から語法・文法研究へ」内田聖二(奈良大学特命教授)

◆2022年度新入会員紹介

以下の方々が新しく本学会に入会されました。どうぞよろしくお願いたします(50音順。掲載希望者のみ)。

岩橋 一樹(京都先端科学大学)
大津 隆広(九州大学)
菊地遼太郎(学習院大学大学院)
草薙 邦広(県立広島大学)
篠崎 剛(昭和第一学園高等学校英語科)
寺山 里穂(金沢大学大学院)
原 澄枝(立命館大学大学院)
本多 尚子(愛知大学)
山崎のぞみ(関西外国語大学)

◆2021年度会計報告(Apr. 2021 - Mar. 2022)

(第30回記念大会総会(オンライン)において承認されました。)

(収入)		(以下、単位:円)
前年度繰越残高		3,905,547
会費		1,470,000
学会誌売り上げ		26,790
懇親会費		0
雑収入		0
計(1)		5,402,337
(支出)		
事務局費		10,000
通信費		184,750
旅費交通費		0
印刷費		0
人件費		48,000
会議費		0
消耗品費		25,214
雑費		4,546
雑誌製作費		432,273
大会運営費		0
計(2)		704,783
残高現在 [計(1)-計(2)]		4,697,554

◆年会費納入のお願い

本学会の年会費は、「一般会員」は5,000円、「学生会員」は4,000円となっております。つきましては、2023年度(2023年4月~2024年3月)会費を同封の郵便払込取扱票でお支払いください。申し訳ありませんが、払込手数料は各自ご負担ください。金額欄が10,000円または8,000円になっている方は、前年度分年会費が未納です。併せて納入くださいますようお願いいたします。会費が2年連続して未納の場合は、会員資格が失効いたします。「学生会員」は郵便払込取扱票の通信欄に住所・氏名に加えまして、「在籍大学(院)名」も

ご記入ください。なお、学会からの配布物を確実にお手元にお届けするために、**住所・所属に変更や異動のある方は、必ず英語語法文法学会のウェブサイト (http://segu.sakura.ne.jp/) の「登録情報の変更」連絡用フォームにて事務局までお知らせください**ますようお願い申し上げます。また、**メールアドレスをご登録でない方は、事務局までお知らせください。今後、メールでご連絡を差し上げる可能性がございますので、ご協力をお願いいたします。メールアドレスを変更された場合も、必ずご連絡ください。**

本学会では自然災害等における被災者に対しては、原則として災害発生年度の学会費を免除しております。対象となる方は事務局までご連絡ください。

◆新刊書紹介

安井稔・安井泉『英文法総覧 大改訂新版』東京：開拓社. 2022年10月.

石原健志『受験英語をバージョンアップする—ずっと使える英語力への15のTips— (一歩進める英語学習・研究ボックス)』東京：開拓社. 2022年11月.

倉田誠 (編)『映画でひもとく英語学』東京：くろしお出版. 2022年11月.

瀬戸賢一・宮畑一範・小倉雅明 (編著)『[例解] 現代レトリック事典』東京：大修館書店. 2022年11月.

廣瀬幸生・島田雅晴・和田尚明・長野明子 (編)『比較・対照言語研究の新たな展開—三層モデルによる広がりと深まり—』東京：開拓社. 2022年11月.

廣瀬浩三・松尾文子・西川眞由美『英語談話標識の姿』(ちょっとまじめに英語を学ぶシリーズ 5) (シリーズ監修 赤野一郎・内田聖二) 東京：ひつじ書房. 2022年11月.

南出康世・中邑光男 (編集主幹)『ジーニアス英和辞典 第6版』東京：大修館書店. 2022年11月.

小川芳樹・中山俊秀 (編)『コーパスからわかる言語変化・変異と言語理論 3』東京：開拓社. 2022年12月.

八木克正 (監修), 井上亜依・住吉誠・藏菌和也 (著)『文法活用の大学英語演習』東京：開拓社. 2022年12月.

出水孝典『開拓社叢書 36 語彙アスペクトと事象構造 (上) —時間特性を診る 14 章—』東京：開拓社. 2023年1月.

出水孝典『開拓社叢書 37 語彙アスペクトと事象構造 (下) —事象の枠を捉える 14 章—』東京：開拓社. 2023年1月.

石原健志『入試実例 コンストラクションズ 英文法語法コンプリートガイド』東京：三省堂. 2023年3月.

遊佐典昭・小泉政利・野村忠央・増富和浩 (編)『言語理論・言語獲得理論から見たキータームと名著解題』東京：開拓社. 2023年3月.

◆終身会員

2020年の大会で終身会員制度が認められ、発足しました。該当する会員は、本学会 HP の「学会規約」タブの中の「終身会員規定」の条件を確認したのち、本学会 HP の「入会方法について」タブの中の「終身会員の手続き」をご覧ください。

編集後記

2020年4月より運営委員および事務局長の補佐として学会運営にかかわり、2022年4月より事務局長の任を仰せつかりました。この3年間は新型コロナウイルス感染症蔓延のために、学会の運営におきましても様々な対応が求められてきました。会員の皆様には、ご不便をおかけしましたが、ご理解・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。会員の皆様、中澤和夫会長、会計・名簿管理担当の佐藤健児氏および運営委員の先生方のお力添えをいただき、何とか運営することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

2023年度は、過去3年間の規制が緩和され、以前のような生活に少しずつ戻っていくものと思われれます。本学会も、セミナーや研究大会は、久しぶりの対面開催の予定でございます。しかしながら、コロナ禍で得られたプラスの側面は継続できるようにしたいと思っております。その試みの一つとして、対面開催でも大会予稿集のデジタル化を継続する予定でございます。コロナ禍前の対面開催時には、大会予稿集は紙媒体で発行しておりましたが、コロナ禍のオンライン開催時には、本学会のウェブサイトでご覧できる形で一定期間、掲載しておりました。対面開催でもこのウェブサイトでの掲載という方式を継続し、紙媒体の予稿集の制作費を節約した分、大会参加費を安くし一人でも多くの皆様に参加しやすい環境を整えていきたいと思っております。

上記の他にも、会員の皆様から忌憚のないご意見を頂戴しながら、より良い学会運営を目指したいと思っております。今後とも何卒よろしく願いいたします。
(2023年4月12日 西脇幸太)